

松嶋夜話 卷之下 37

〔原文〕有客夜話次問

〔訓読〕客有りて夜話の次を問ふ

〔原文〕筑前宗象大明神之保社有一手筆之大藏

〔訓読〕筑前の宗象の大明神の保社に一手筆の大藏有り

〔原文〕師有聞哉余曰

〔訓読〕師聞く有りかな、余曰く

〔原文〕筑前田島香正寺昔有色條座主者

〔訓読〕筑前の田島の香正寺に昔色條座主という者有り

〔原文〕本名曰良祐

〔訓読〕本名は良拓と曰ふ

〔原文〕色條本姓也

〔訓読〕色條は本姓なり

〔原文〕是曰千光祖師肉弟也

〔訓読〕是れ千光祖師の肉弟なり

※千光祖師…栄西（永治元年4月20日（1141年5月27日） - 建保3年7月5日（1215年8月1日））は、平安時代末期から鎌倉時代初期の僧。日本における臨済宗の宗祖、建仁寺の開山。天台密教葉上流の流祖。字が明菴、諱が栄西。また、廃れていた喫茶の習慣を日本に再び伝えたことでも知られる。

〔原文〕箇人入宋歸朝之后書寫一切經全套

〔訓読〕箇の人宋に入り朝に歸した后、一切經の全套を書寫す

〔原文〕日本異稱傳中以鶴林玉露督之

〔訓読〕日本の異稱、傳中に鶴林玉露を以て之を督す

※『鶴林玉露』…南宋の羅大経による随筆。著者の見聞や文学評論などを記す。淳祐戊申（1248年）から淳祐壬子（1252年）にかけて編纂された。全18巻。

〔原文〕復近年龍安梁谷和尚哉於一手筆藏寫

〔訓読〕復た近年龍安の梁谷和尚、一手筆の藏寫を哉（は）じむ

〔原文〕余先年妙心三篆之日之龍安西源院

〔訓読〕余、先年、妙心三篆の日、龍安の西源院に之きて

〔原文〕合仇其半藏之寫矣

〔訓読〕其の半藏の寫を合仇す

※「仇」…意味が不明

〔原文〕隨喜之餘自画乙雙墨竹並賛贈之

〔訓読〕隨喜の餘、自ら乙雙の墨竹を画き、賛を並べて之を贈る

〔原文〕而壽於和尚藏膳之大功業云曰

〔訓読〕和尚の藏膳の大功業を壽して云う、曰く

〔原文〕在彼竹林精舍中五千餘卷半膳終

〔訓読〕彼の竹林の精舍の中に在て、五千卷半ばは膳し終る

〔原文〕願蒙護法龍天庇假此君年圓大功

〔訓読〕願はくは、護法の龍天の庇を蒙りて、此の君の年を假して大功を圓す